

稲の収穫後は、減耗した地力の回復のため、**土壤改良資材**や**有機物を施用**し、**土づくり**を行いましょ

いざ、
土づくり!

1 土壤改良資材の施用

- ・水田土壤中のケイ酸やカリが減少し、目標値を下回っている圃場が多くなっています。
- ・目標の土壤 pH (6.0~6.5) に矯正するためにも、確実に 100kg/10a 施用しましょう。

<主な土壤改良資材の成分と標準施用量>

資材名	標準施用量 (kg/10a)	標準量施用時の成分量(kg/10a)			
		ケイ酸	苦土	アルカリ	加里
加里入り シリカエールプラス	100	23	5	41	3
シリカエールプラス*	100	25	5	43	—

※ カリを補うため、翌年の6月中下旬に「ケイ酸加里プレミアム 34」等、中間追肥を散布しましょう。

2 有機物の施用

- ・有機物の施用により土壤の化学性・物理性・生物性を改善し、不足養分を補給しましょう。

化学性	養分の保持力が高まり、作物への供給量が増加します。
物理性	透水性・保水性・通気性が良くなり、作物の根張りが向上します。
生物性	微生物や小動物の生息数が増え、地力が高まります。

① 堆肥施用

堆肥名	施用量(10a 当たり)		
発酵鶏ふん	乾田	150kg	半湿田 100kg

カリも補給
できます!

② 緑肥作物

作物名	播種量(10a 当たり)	播種時期
ヘアリーベッチ	3~4kg	水稻刈取後~10月中旬

※ 緑肥の作付けには、市やJAの助成があります。

3 秋耕

- ・水稻収穫後ひこばえが出穂する前で、地温の高い9~10月中に秋耕を行い、すき込んだ稲わらの腐熟を促進しましょう。
- ・排水溝を設置し、排水口に連結させて圃場の排水を促しましょう。

4 大豆作付予定地の排水対策（額縁排水溝、心土破碎）

- ・翌年の大豆作付予定地では、稲の収穫後速やかに額縁排水溝を設置するとともに、サブソイラによる心土破碎を行い、圃場の透水性を改善しましょう。

8/20~10/20は「秋の農作業安全運動」実施中!!

9/15~11/15は「秋の土づくり運動期間」、10/1は「土の日」です。